

科目名 (英)	導入教育 I First Year Experience	年次	1	実務経験	担当	大迫 暁子
		授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	15	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	3限・4限
講師紹介	国内外で美容業界に従事してきた教員が、美容業界に必要なコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を養うための授業を行う。多様化する価値観や違いを受け入れ、現場で必要とされる即戦力を身に付けた業界人になるサポートをします。					
目的 科目概要	学生生活を送る上での基本ルールやスケジュール、各種共通ツールの使用方法を理解する。					
到達目標	多様な価値観を理解し、学校生活を送る上でのマナー・連絡・報告・相談ができるようになる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input checked="" type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	powerpoint資料			事前事後 学習と その内容	授業で使用した教材を見返せるよう、ラップトップ内でまとめておくこと。	
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	新入生オリエンテーション1	学校の教職員を知る・学則を知る
2	新入生オリエンテーション2	学園の資源(学生寮・慶盛会クリニック)を知る・学生生活のリスクを知る
3	導入教育①ー1	授業を受ける準備①(4秒挨拶・瞑想点呼・ITリテラシー)
4	導入教育①ー2	授業を受ける準備②(Teams準備・安否確認登録・ポータルサイト登録など)
5	導入教育②ー1	授業を受ける準備③(Teamsを使ってみよう・学則について)
6	導入教育②ー2	授業を受ける準備④(校舎見学・スケジュールの確認)
7	導入教育③ー1	ベルリンピック
8	導入教育③ー2	ベルリンピック
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	美容概論 Introduction to Beauty Studies	年次	1	実務経験	担当	大迫 暁子
		授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	2		曜日・時間	木曜日3限
講師紹介	国内外で美容業界に従事してきた教員が、就職活動に必要なコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を養うための授業を行う。多様化する価値観や違いを受け入れ、現場で必要とされる即戦力を身に付けた業界人になるサポートをします。					
目的 科目概要	基本的な美容に関する技術や知識を学び、将来の美容の仕事につながる力を目指す 基本的な美容に関する技術や知識を学び、美容の仕事の説明ができる					
到達目標	自国と他国の違いや特徴を見つけ、新たな価値観を創造することができる 日本社会の成り立ちを学び、卒業後の進路選択を自ら決定することができる 専門用語を学び、美容分野への就職へ備えることができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	powerpoint資料	事前事後 学習と その内容	授業で使用した教材を見返せるよう、ラップトップ内でまとめておくこと。			
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介 / 学校について	クラスメイトを知る / 学校の特色を知る 校舎見学スタンプラリー
2	美容師について	仕事内容・必要な資格等・雇用形態・就労可能なビザ・経営について
3	トータルビューティーについて	仕事内容・必要な資格等・雇用形態・就労可能なビザ・経営について
4	ヘアメイクについて	仕事内容・必要な資格等・雇用形態・就労可能なビザ・経営について
5	日本での暮らし① / メンタルヘルスの整え方	瞑想 ヨガ60分間 インストラクター講師：藍先生
6	多様性 - Diversity -	あなたの国の美容を研究・紹介 / ポートフォリオ作成
7	中間試験	JLPT N3レベル問題(言語知識(文字・語彙)・言語知識(文法)読解)90分
8	体験授業(美容師科)	ヘアサロンでのシャンプーをお客様として体験する
9	体験授業(トータルビューティ科)	トータルビューティーⅡ授業を体験する
10	体験授業(ヘアメイク科)	スチールヘアメイク授業を体験する
11	日本での暮らし② / 税金・社会保険	社会保険制度・税金 日本で暮らすための基本ルール解説
12	美容の歴史 日本・アジア諸外国	日本国内・アジア圏の美容の起源、歴史を学ぶ
13	美容の歴史 ヨーロッパ・北アメリカ・オセアニア諸外国	他地域の美容の起源、歴史を学ぶ
14	定期試験	JLPT N3レベル問題(聴解)60分
15	前期総括	学習内容の振り返り / 自己評価ポートフォリオ作成

科目名 (英)	コミュニケーション基礎 I	年次	1	実務経験	担当	石井 晴子
	Foundations of Communication I	授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	15	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	木曜日4限
講師紹介	多様な背景を持つ受講者の指導歴がある日本語教師が、日本語能力養成をベースに日常場面や職場での基本的なコミュニケーションの取り方を伝える。					
目的 科目概要	日本での生活や仕事に必要な日本語運用力を養うため、日常場面や職場での基本的なやり取りを学ぶ。聞く・話す・読む・書く技能を総合的に伸ばし、ロールプレイやタスク活動を通して基礎的コミュニケーション力を身につける。					
到達目標	日本での生活や仕事をする事ができる日本語のコミュニケーション力の基礎を身に付ける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	powerpoint資料			事前事後 学習と その内容	JLPT対策と会話を交互に実施する。該当のテキスト1冊を毎回持参する。JLPTの文字・語彙、文法、読解は予習を必要とする。eラーニング教材 (Monoxer)、AI会話アプリ (Hai-J) を復習・自律学習として活用する。	
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	レベルチェックテスト	レベルチェックテストの実施(筆記・会話)
2	【JLPT対策】	文字・語彙(第1回) 文法(第1回)
3	【会話】	Lesson1 貸してもらう(前半)
4	【JLPT対策】	読解(第1回) 聴解(第1回)
5	【会話】	Lesson1 貸してもらう(後半)
6	【JLPT対策】	文字・語彙(第2回) 文法(第2回)
7	【会話】	Lesson2 予定を変更する(前半)
8	【JLPT対策】	読解(第2回) 聴解(第2回)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	コミュニケーション基礎Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	石井 晴子
	Foundations of Communication Ⅱ	授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	15	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	木曜日4限
講師紹介	多様な背景を持つ受講者の指導歴がある日本語教師が、日本語能力養成をベースに日常場面や職場での基本的なコミュニケーションの取り方を伝える。					
目的 科目概要	日本での生活や仕事に必要な日本語運用力を養うため、日常場面や職場での基本的なやり取りを学ぶ。聞く・話す・読む・書く技能を総合的に伸ばし、ロールプレイやタスク活動を通して実践的なコミュニケーション力を身につける。					
到達目標	日本での生活や仕事をする事ができる日本語のコミュニケーション力を身に付ける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	powerpoint資料			事前事後 学習と その内容	JLPT対策と会話を交互に実施する。該当のテキスト1冊を毎回持参する。JLPTの文字・語彙、文法、読解は予習を必要とする。eラーニング教材(Monoxer)、AI会話アプリ(Hai-J)を復習・自律学習として活用する。	
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	【会話】	Lesson2 予定を変更する(後半)
2	【JLPT対策】	文字・語彙(第3回) 文法(第3回)
3	【会話】	Lesson3 レストランで(前半)
4	【JLPT対策】	読解(第3回) 聴解(第3回)
5	【会話】	Lesson3 レストランで(後半)
6	【JLPT対策】	文字・語彙(第4回) 文法(第4回)
7	【会話】	Lesson4 旅行の感想(前半)
8	定期試験	定期試験の実施
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	情報技術基礎 Foundations of Information Technology	年次	1	実務経験	担当	阿部 健
		授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	15	無	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	月曜日4限
講師紹介	「認定CPOアカデミック(個人情報保護最高責任者)資格」を持ち、個人情報保護と情報技術の活用についてのシステム管理を行ってきた。美容を学ぶ上でのITリテラシーと情報技術の活用を実践を交えて講義進行を行う。					
目的 科目概要	ITリテラシーを学び、個人情報保護の実践方法を学ぶ。 学内で使用する情報技術を知る。					
到達目標	ITリテラシーを学び、個人情報保護を実践できる。 学内で使用する情報技術を知り、活用できる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input checked="" type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	powerpoint資料	事前事後 学習と その内容	授業で使用した教材を見返せるよう、ラップトップ内でまとめておくこと。			
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	科目オリエンテーション	科目概要・評価方法について
2	ITリテラシーについて①	情報漏洩のリスクについて
3	ITリテラシーについて②	リスク管理について
4	ITリテラシーについて③	IT/DXリテラシー検定
5	Teamsについて①	Teams準備について
6	Teamsについて②	Teamsの使用方法
7	Teamsについて③	Teamsの活用について
8	定期試験	定期試験課題
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	心理学基礎 Foundations of Psychology	年次	1	実務経験	担当	阿部 健
		授業形態	講義			
学科	ビューティービジネス科	時間数	15	無	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	月曜日4限
講師紹介	中高保健体育免許を持ち、幼児から高齢者までの幅広い年齢層のクライアントのモチベーション維持に関わった経験を有し、専門学校教育に20年以上従事し、数多くのカウンセリング実績を持つ。					
目的 科目概要	心理学の概要を理解するために理論と実践を交え講義を進行する					
到達目標	心理学の基礎を学び、自己理解の一助とする。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。					
	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input checked="" type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	powerpoint資料			事前事後 学習と その内容	授業で使用した教材を見返せるよう、ラップトップ内でまとめておくこと。	
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	科目オリエンテーション	科目概要・評価方法について
2	美容における心理学の役割と「初対面」の心理効果	メラビアンの法則(視覚・聴覚・言語情報の割合)、ハロー効果(見た目の影響力)の理解。鏡越しのアプローチが与える心理的影響。
3	本音を引き出すカウンセリング心理学	傾聴(アクティブ・リスニング)とバックラッキング(オウム返し)
4	タイプ別・お客様の心理アプローチ	ソーシャルスタイル理論(4つのコミュニケーションタイプ)
5	また来たくなる「リピートの心理学」	行動経済学と認知心理学の接客への応用
6	デライト(感動)の心理と選択のパラドックス	商品やトリートメントを提案する際の心理。選択肢が多すぎると選べなくなる心理(松竹梅の法則)と、購買意欲をそそる動機付け。
7	クレーム心理への対応とレジリエンス	感情労働としての美容業と、怒りの心理(アンガーマネジメント)
8	定期試験	定期試験課題
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	スタイリング I styling I	年次	1	実務経験	担当	足立 祐希
		授業形態	演習			
	時間数	60	有	開講区分	前期	
学科	ビューティービジネス科	単位		4	曜日・時間	水曜日3、4限
講師紹介	現役ヘアメイクアップアーティストで様々な現場を経験、セットサロンの経営。					
目的 科目概要	基礎技術を生かし髪の毛のスタイリングをしていく。					
到達目標	基礎のヘアデザインを学び自分でデザインをイメージし、言葉で説明出来るようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	なし	事前事後 学習と その内容	授業中は必ずメモをとり、復習をすること			
教材	コーム・ダッカー・タオル					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	ホットカーラーで巻きおろし	ホットカーラーを使い美しい巻きおろしが作れる
2	編み込みツイン	編み込みを使い、美しいツインアレンジを作る
3	編み込みストレートハーフ	編み込みとアイロンワークを使いハーフアップを作る
4	ウェーブ巻きで作るハーフアップ	ウェーブ巻きを学びハーフアップを作る
5	編み込みポニーテール	編み込みを入れたポニーテールアレンジを作る
6	ツイストハーフアップ	美しいツイストハーフの作り方を学ぶ
7	中間試験(ツイストハーフアップ)	ピンングを使い美しいハーフアップが作れるようになる
8	あみ下ろし	あみ下ろしスタイルを美しく作る
9	玉ねぎヘア	くるりんぱを学び美しい玉ねぎヘアを作る
10	デッサンシートの作成	デッサンシートを作成し、解説をしっかりと明確位にする
11	定期試験練習	学んで来た基礎を生かし自由作品練習と発表の練習をする
12	定期試験練習	学んで来た基礎を生かし自由作品練習と発表の練習をする
13	定期試験練習	学んで来た基礎を生かし自由作品練習と発表の練習をする
14	定期試験	自由作品を作りコンセプトについて発表する
15	定期試験振り返り	定期試験のフィードバックを行う

科目名 (英)	ヘアアレンジ I Hair Styling I	年次	1	実務経験	担当	足立 祐希
		授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	4		曜日・時間	集中
講師紹介	現役ヘアメイクアップアーティストで様々な現場を経験、セットサロンの経営。□ □					
目的 科目概要	ヘアアレンジにおいて最も重要な「土台作り」と「基本の編み込み・カール技法」を習得する。					
到達目標	ヘアアレンジにおいて最も重要な「土台作り」と「基本の編み込み・カール技法」を習得する。 ウィッグを使用し、ピン1本の打ち方、ゴムの結び方から徹底的にこだわり、崩れない・美しいスタイルの基礎を築くことができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験    ■ 実技試験    □ 作品    □ 提出課題					
教科書	powerpoint資料	事前事後 学習と その内容	出題した課題を自分で深め、成果物として提出してもらいます。			
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	科目オリエンテーション	科目概要・評価方法について
2	崩れない「ポニーテール」	ゴムの結び方(根元を締める技術)と「ゴム隠し」
3	高さによる印象の変化とゴールデンポイント	ハイ・ミドル・ローポニーテールの設定とシルエットの黄金比
4	ツイスト技法と「くるりんぱ」の基礎	毛束をねじる・通す基本操作と引き出しの基本
5	三つ編みと「表編み込み」の基礎	3本の毛束のコントロールと均一な頭皮への密着
6	立体感を出す「裏編み込み」	表編み込みとの違いの理解と立体的なライン出し
7	アイロン操作の基本(カール&波ウェーブ)	カールアイロン・ストレートアイロンの安全な扱いと熱の通し方
8	中間試験	基礎技術の正確性チェック
9	ピンワークの徹底習得(アメリカピン・ネジピン)	ピンが「止まる」メカニズムと、見えない留め方
10	まとめ髪の定番「シニヨン」の基礎	襟足(ネーブ)の位置で作る上品なまとめ髪の土台
11	ハーフアップスタイルの構築	上半分のまとめ方と、下半分のカール(巻き髪)の連動
12	トレンドの「ルーズ感」を出す引き出しテクニック	崩れているように見えない、計算された「ほぐし」
13	総合スタイル構築	基本技法を3つ以上組み合わせたアップスタイル
14	総合スタイル構築	基本技法を3つ以上組み合わせたアップスタイル
15	定期試験	基礎技術の総合評価

科目名 (英)	メイクアップ I Make-up I	年次	1	実務経験	担当	高橋祐季奈
		授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	4		曜日・時間	金曜日3,4限
講師紹介	企業広告やイベントで活動をするヘアメイクアーティストによるメイクアップの基礎と心得					
目的 科目概要	人の顔に触れることに対する基本エチケットから、ツールの使い方、スキンケアからメイクアップまでを学ぶ					
到達目標	メイクをしてもらう相手が不快に思わない所作や心掛け ナチュラルな美しさを引き出すベーシックなフルメイクを40分でできるように					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	テキスト(PDF、写真)			事前事後 学習と その内容		
教材	メイク道具一式、ウエットティッシュ、綿棒、ティッシュ、タオル2枚(黒)、iPad					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	道具を学ぶ	道具の名称・名前シール貼り・自己紹介(講師紹介)
2	基本1	メイクアップを施す際のエチケット、カウンセリング、スキンケア
3	ベースメイク	下地、ファンデーション 技法を学ぶ
4	シャドウイング	チーク、ハイライト、ローライト
5	目元 集中1	アイブロウ・アイシャドウ・リップ
6	目元 集中2	アイラッシュ・アイライン
7	中間試験	今までに習った基本のおさらい(実技)
8	テスト フィードバック	テストのフィードバック
9	スキンケア	クレンジング・マッサージ
10	作品創作	好きなメイクをしてみよう
11	撮影ヘアメイク	撮影のシチュエーション別のメイク
12	相モデル	その人にあったメイクをしてみよう
13	タイム取り	メイクにかかるタイムを縮めてみよう
14	定期試験	今までに習った基本のおさらい(実技)
15	テスト フィードバック	メイクの仕上がり30分を意識したフルメイク

科目名 (英)	ヘアメイク I Hair Make up I	年次	1	実務経験	担当	足立 祐希
		授業形態	演習			
	時間数	60	有	開講区分	前期	
学科	ビューティービジネス科	単位			4	曜日・時間
講師紹介	現役ヘアメイクアップアーティストで様々な現場を経験、セットサロンの経営。□					
目的 科目概要	ヘアセットの基礎技術を学ぶ					
到達目標	スタイル作りに必要な基礎技術を習得する					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験    ■ 実技試験    □ 作品    □ 提出課題					
教科書	なし	事前事後 学習と その内容	授業中は必ずメモをとり、復習をすること□			
教材	コーム・ダッカール・タオル		□	□	□	□
特記事項						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ホットカーラー	基本の巻き方、構成を学ぶ
2	編み込み	裏あみ、表編みを学ぶ
3	ストレートアイロン	基本のアイロンワークを学ぶ
4	コテ巻き	アイロンの使い方、内巻き、外巻き、を学ぶ
5	ゴム一束	黒ゴムの使い方、美しい結び方を学ぶ
6	ピンング	基本のねじりどめを学ぶ
7	中間試験(ピンング)	美しく強度のある5点どめが出来る
8	フィッシュボーン	基本のフィッシュボーンプロセスを学ぶ
9	ブロー(デンマン)	デンマンの使い方、ブローの手順を学ぶ
10	ブロー(デンマン)	デンマンの使い方、ブローの手順を学ぶ
11	ブロー(デンマン)	デンマンの使い方、ブローの手順を学ぶ
12	ブロー(ロール)	ロールブラシのの使い方、ブローの手順を学ぶ
13	ブロー(ロール)	ロールブラシの使い方、ブローの手順を学ぶ
14	定期試験	ロールブラシにて美しいブローを仕上げる
15	定期試験振り返り	定期試験のフィードバックを行う

科目名 (英)	トータルプロデュース Total Production	年次	1	実務経験	担当	こまい みゆ
		授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	30	無	開講区分	前期
単位		単位	2		曜日・時間	集中
講師紹介	株式会社ワールドへ入社後、約10年以上アパレル販売員として活躍し約36,000人以上のファッションコーディネートを担当。現在はイメージコンサルタントとしてイメージコンサルティングサロンを経営4年目。年間400名以上、総数2,000名以上のパーソナルカラー診断、骨格診断、メイクレッスン、ショッピング同行など老若男女問わず実施。また大手結婚相談所会員向けのレッスンも担当している。					
目的 科目概要	幅広いファッションセンスやスタイル、ヘアスタイル、メイク、ネイルとのトータルビューティの考え方を身につけ、発表することができるようになる。ファッション業界、美容業界での実務に活かせるコミュニケーション力を習得する。					
到達目標	憧れられる美容のプロを目指すうえでファッションセンスを身につけ、様々なファッションスタイルを学び、自分に似合うスタイルや新しい発見に結びつけることができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input checked="" type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	powerpoint資料		事前事後 学習と その内容	出題した課題を自分で深め、成果物として提出してもらいます。		
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	科目オリエンテーション	科目概要・評価方法について
2	パーソナルスタイリング①	・ベーシックアイテムを使って基本のスタイリング技術を学ぶ
3	パーソナルスタイリング②	・ベーシックアイテムを使ったスタイリングのシーズン別のスタイリング技術を学ぶ
4	パーソナルスタイリング③	・体型別、コンプレックス別のスタイリング技術を学ぶ
5	色彩とパーソナルカラー①	・色彩が持つ特徴と印象 ・ファッションアイテムの色との関係 ・パーソナルカラー診断とは
6	色彩とパーソナルカラー②	・パーソナルカラー診断とファッション ・パーソナルカラー実習
7	中間試験	・筆記試験 ・パーソナルスタイリング 発表
8	顔タイプ診断とトレンド	・顔タイプ診断とは ・トレンドとは
9	骨格診断とファッション	・骨格診断とは ・骨格タイプ別アイテム、ファッション
10	骨格診断とファッション	・骨格タイプ別ファッションとコーディネート
11	コレクション	・コレクションとは ・コレクションから学ぶファッションスタイル
12	セルフプロデュース	・自分のチャームポイントを知る ・チャームポイントを活かしたファッションスタイリング ・ファッションショー概要
13	ファッションショー(期末試験)準備	・ウォーキング ・ファッションショー準備(曲・洋服・ヘアメイク準備)
14	ファッションショー(期末試験)準備	・今までの復習・試験対策 ・骨格診断・顔タイプ診断復習&クリエイティブ ・シチュエーション別コーディネート(ディズニー)
15	ファッションショー(期末試験)	ファッションでセルフプロデュース



科目名 (英)	美容技術基礎Ⅱ Foundations of Beauty TechniquesⅡ	年次	1	実務経験	担当	大迫 暁子
		授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	15	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	月曜日3限
講師紹介	国内外で美容業界に従事してきた講師が、就職活動に必要なコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を養うための授業を行う。多様化する価値観や違いを受け入れ、現場で必要とされる即戦力を身に付けた業界人になるサポートをします。					
目的 科目概要	基本的な美容に関する技術や知識を学び、将来の美容の仕事につながる力を目指す 基本的な美容に関する技術や知識を学び、美容の仕事の説明ができる					
到達目標	自国と他国の違いや特徴を見つけ、新たな価値観を創造することができる 日本社会の成り立ちを学び、卒業後の進路選択を自ら決定することができる 専門用語を学び、美容分野への就職へ備えることができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	powerpoint資料	事前事後 学習と その内容	授業で使用した教材を見返せるよう、ラップトップ内でまとめておくこと。			
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	年金制度	年金制度についてセミナー
2	集客について	集客方法 SNSなど
3	SNS・ICT	SNS活用方法
4	多様化する価値観	文化理解・トレンドを学ぶ
5	社会人基礎1	ビジネスシーン 基礎
6	夏休み課題 準備	作品集(ポートフォリオ)作成
7	定期試験	日本語教育アプリを用いた、日本語能力チェック(課題)
8	社会人基礎2	ビジネスシーン 応用 / 前期まとめ
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	健康と栄養 Health and Nutrition	年次	1	実務経験	担当	阿部 健
		授業形態	講義			
学科	ビューティービジネス科	時間数	15	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	月曜日4限
講師紹介	中高保健体育教員免許を持ち、民間および公設の運動施設にて10年以上の指導経験を持つ教員が経験を活かし、健康と栄養の関わりを学校生活に即して授業を展開する。					
目的 科目概要	学生自身が個々に抱える生活背景を理解し「健康」を多角的な視点で捉え、栄養との関係を学ぶ事で自身の生活習慣改善のヒントを掴む。					
到達目標	健康について多角的な視点で捉えることができ、自身の生活習慣を改善するためのポイントを整理することができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。					
	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input checked="" type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	powerpoint資料・アンケート			事前事後 学習と その内容	授業で使用した教材を見返せるよう、ラップトップ内でまとめておくこと。	
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	健康概論	健康についての概論を整理できる
2	社会的・精神的健康①	アンケートの意義を理解しCSA(キャリアサポートアンケート)に回答できる
3	社会的・精神的健康②	アンケートの意義を理解しCSA(キャリアサポートアンケート)に回答できる
4	社会的・精神的健康③	アンケートの意義を理解しハイパーQUIに回答できる
5	身体的健康①	健康診断結果を確認できる。必要に応じて再検査の予約・受診が出来る。
6	健康と栄養の関係を考える①	自身の健康を考え、昼食を準備する。
7	健康と栄養の関係を考える②	自身の1週間の食生活を記録し、課題・改善点を上げる
8	定期試験	定期試験課題
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	導入教育Ⅱ Career DevelopmentⅡ	年次	1	実務経験	担当	大迫 暁子
		授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	30	有	開講区分	後期
		単位	2		曜日・時間	3限・4限
講師紹介	国内外で美容業界に従事してきた教員が、美容業界に必要なコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を養うための授業を行う。多様化する価値観や違いを受け入れ、現場で必要とされる即戦力を身に付けた業界人になるサポートをする。					
目的 科目概要	学生生活を送る上での基本ルールやスケジュール、各種共通ツールの使用方法を理解する。					
到達目標	多様な価値観を理解し、学校生活を送る上でのマナー・連絡・報告・相談ができるようになる。 卒業後の進路を明確にし、言語化					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input checked="" type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	powerpoint資料		事前事後 学習と その内容	授業で使用した教材を見返せるよう、ラップトップ内でまとめておくこと。		
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	後期オリエンテーション	後期スケジュールと進路について
2	サービスマナー研修①	サービスマナーを知る
3	サービスマナー研修②	サービスマナーを体感する
4	サービスマナー研修③	研修振り返り
5	進路探求①ー1	自身を進路を考える
6	進路探求①ー2	オープンキャンパス参加(学科説明を聞く)
7	進路探求①ー3	オープンキャンパス参加(体験授業に参加する)
8	進路探求①ー4	振り返り・発表
9	進路探求②ー1	自身を進路を考える
10	進路探求②ー2	オープンキャンパス参加(学科説明を聞く)
11	進路探求②ー3	オープンキャンパス参加(体験授業に参加する)
12	進路探求②ー④	振り返り・発表
13	最終登校日①	学内修了式
14	最終登校日②	学内修了式
15	卒業式	最後の授業

科目名 (英)	インターンシップ I Internship I	年次	1	実務経験	担当	大迫 暁子
		授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	15	有	開講区分	後期
		単位	1		曜日・時間	木曜日3限
講師紹介	国内外で美容業界に従事してきた講師が、就職活動に必要なコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を養うための授業を行う。多様化する価値観や違いを受け入れ、現場で必要とされる即戦力を身に付けた業界人になるサポートをします。					
目的 科目概要	基本的な美容に関する技術や知識を学び、将来の美容の仕事につながる力を目指す 基本的な美容に関する技術や知識を学び、美容の仕事の説明ができる					
到達目標	日本社会の成り立ちを学び、卒業後の進路選択を自ら決定することができる 専門用語を学び、美容分野への就職へ備えることができる 日本での就職を目指しJLPTN2試験合格あるいはそれ相応の語学力を証明することができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	powerpoint資料	事前事後 学習と その内容	授業で使用した教材を見返せるよう、ラップトップ内でまとめておくこと。			
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	インターン計画	美容分野のカテゴリーを分けよう
2	インターン基本対応を学ぶ	電話、ビジネスメール、接客マナーなど
3	インターン①	原宿・渋谷・表参道エリア散策
4	インターン①	振り返り 散策マップ作成
5	インターン②	銀座・日本橋・東京駅エリア散策
6	インターン②	振り返り 散策マップ作成
7	中間試験	JLPT N2レベル問題(言語知識(文字・語彙)・言語知識(文法)読解)90分
8	まとめ	復習 今までに回ったインターン先の詳細をマップにまとめる
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	インターンシップⅡ InternshipⅡ	年次	1	実務経験	担当	大迫 暁子
		授業形態	演習			
	時間数	15	有	開講区分	後期	
学科	ビューティービジネス科	単位		1	曜日・時間	木曜日3限
講師紹介	国内外で美容業界に従事してきた講師が、就職活動に必要なコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を養うための授業を行う。多様化する価値観や違いを受け入れ、現場で必要とされる即戦力を身に付けた業界人になるサポートをします。					
目的 科目概要	基本的な美容に関する技術や知識を学び、将来の美容の仕事につながる力を目指す 基本的な美容に関する技術や知識を学び、美容の仕事の説明ができる					
到達目標	日本社会の成り立ちを学び、卒業後の進路選択を自ら決定することができる 専門用語を学び、美容分野への就職へ備えることができる 日本での就職を目指しJLPTN2試験合格あるいはそれ相応の語学力を証明することができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	powerpoint資料		事前事後 学習と その内容	授業で使用した教材を見返せるよう、ラップトップ内でまとめておくこと。		
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	インターン③	浅草・押上エリア散策
2	インターン③	振り返り 散策マップ作成
3	まつ毛エクステンション	まつエクサロンの実習・サロン見学へ行く
4	アイブロウ	アイブロウ(タトゥー)のサロン見学へ行く
5	エステティック	フェイシャル・ボディー・メンズエステサロンに見学へ行く
6	ネイリスト	ネイルサロンに見学へ行く
7	定期試験	JTEST 聴解問題 60分
8	まとめ	復習 今までに回ったインターン先の詳細をマップにまとめる
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	ビジネスマナー I	年次	1	実務経験	担当	石井 晴子
	Business Etiquette I	授業形態	演習			
	時間数	15				
学科	ビューティービジネス科	単位	1	有	開講区分	後期
					曜日・時間	木曜日4限
講師紹介	多様な背景を持つ受講者の指導歴がある日本語教師が、日本語能力養成をベースに日常場面や職場での基本的なコミュニケーションの取り方を伝える。					
目的 科目概要	日本での生活や仕事に必要な日本語運用力を養うため、日常場面や職場での基本的なやり取りを学ぶ。聞く・話す・読む・書く技能を総合的に伸ばし、ロールプレイやタスク活動を通して実践的なコミュニケーション力を身につける。					
到達目標	日本での生活や仕事をする事ができる日本語のコミュニケーション力を養う。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	powerpoint資料			事前事後 学習と その内容	JLPT対策と会話を交互に実施する。該当のテキスト1冊を毎回持参する。JLPTの文字・語彙、文法、読解は予習を必要とする。eラーニング教材 (Monoxer)、AI会話アプリ (Hai-J) を復習・自律学習として活用する。	
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	【JLPT対策】	読解(第4回) 聴解(第4回)
2	【会話】	Lesson4 旅行の感想(後半)
3	【JLPT対策】	文字・語彙(第5回) 文法(第5回)
4	【会話】	買い物(前半)
5	【JLPT対策】	読解(第5回) 聴解(第5回)
6	【会話】	Lesson5 買い物(後半)
7	【JLPT対策】	文字・語彙(第6回) 文法(第6回)
8	定期試験	定期試験の実施
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	ビジネスマナーⅡ	年次	1	実務経験	担当	石井 晴子
	Business EtiquetteⅡ	授業形態	演習			
	時間数	15				
学科	ビューティービジネス科	単位	1	有	開講区分	後期
					曜日・時間	木曜日4限
講師紹介	多様な背景を持つ受講者の指導歴がある日本語教師が、日本語能力養成をベースに日常場面や職場での基本的なコミュニケーションの取り方を伝える。					
目的 科目概要	日本での生活や仕事に必要な日本語運用力を養うため、日常場面や職場での基本的なやり取りを学ぶ。聞く・話す・読む・書く技能を総合的に伸ばし、ロールプレイやタスク活動を通して実践的なコミュニケーション力を身につける。					
到達目標	日本での生活や仕事ができる日本語のコミュニケーション力を養う。 JLPT N3合格					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	powerpoint資料			事前事後 学習と その内容	JLPT対策と会話を交互に実施する。該当のテキスト1冊を毎回持参する。JLPTの文字・語彙、文法、読解は予習を必要とする。eラーニング教材(Monoxer)、AI会話アプリ(Hai-J)を復習・自律学習として活用する。	
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	【会話】	Lesson6 アルバイトを探す(前半)
2	【JLPT対策】	読解(第6回) 聴解(第6回)
3	【会話】	Lesson6 アルバイトを探す(後半)
4	【JLPT対策】	文字・語彙(第7回) 文法(第7回)
5	【会話】	Lesson7 ほめられて(前半)
6	【JLPT対策】	読解(第7回) 聴解(第7回)
7	【会話】	Lesson7 ほめられて(後半)
8	定期試験	定期試験の実施
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	スタイリングⅡ stylingⅡ	年次	1	実務経験	担当	足立 祐希
		授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	4			曜日・時間
講師紹介	現役ヘアメイクアップアーティストでヘアメイク事務所、セットサロンの経営しています。楽しく一緒に学びましょう。□					
目的 科目概要	接客やご案内の基本を学び、アイモデルでのスタイリングを学ぶ					
到達目標	サロンクオリティーの接客を身につけアイモデルで美しくヘアスタイリングができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験    ■ 実技試験    □ 作品    □ 提出課題					
教科書	なし	事前事後 学習と その内容	授業中はメモをとり、復習をすること			
教材	コーム・ダッカール・タオル					
特記事項						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ご案内接客	基本の接客用語を学び椅子の使い方等を学ぶ
2	ご案内接客、カウンセリング	学んだ接客用語を生かし、カウンセリングをしながら要望を伺う
3	ご案内接客、カウンセリング	学んだ接客用語を生かし、カウンセリングをしながら要望を伺う
4	ご案内接客、カウンセリング、マッサージ	瀬客、カウンセリング、マッサージ等のテクニックを学ぶ
5	ご案内接客、カウンセリング、マッサージ	瀬客、カウンセリング、マッサージ等のテクニックを学ぶ
6	ご案内接客、カウンセリング、マッサージ	瀬客、カウンセリング、マッサージ等のテクニックを学ぶ
7	中間試験	瀬客、カウンセリング、マッサージ等のテクニックを確認する
8	ご案内接客、カウンセリング、マッサージ、ドライ	基本接客のほか、ヘアドライテクニックを学ぶ
9	ご案内接客、カウンセリング、マッサージ、ドライ	基本接客のほか、ヘアドライテクニックを学ぶ
10	ご案内接客、カウンセリング、マッサージ、ドライ	基本接客のほか、ヘアドライテクニックを学ぶ
11	ご案内接客、カウンセリング、マッサージ、ドライ、セット	基本接客のほか、ヘアスタイリングテクニックを学ぶ
12	ご案内接客、カウンセリング、マッサージ、ドライ、セット	基本接客のほか、ヘアスタイリングテクニックを学ぶ
13	ご案内接客、カウンセリング、マッサージ、ドライ、セット	基本接客のほか、ヘアスタイリングテクニックを学ぶ
14	定期試験	基本接客のほか、ヘアスタイリングテクニックを確認する
15	定期試験フードバック	定期試験についてのフィードバックを行う

科目名 (英)	ヘアアレンジⅡ	年次	1	実務経験	担当	足立 祐希
	Hair Styling II	授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	4		曜日・時間	集中
講師紹介	現役ヘアメイクアップアーティストで様々な現場を経験、セットサロンの経営。□					
目的 科目概要	ウィッグ特有の毛量をコントロールし、30分以内で中級レベルのトレンドスタイルを構築を目指す。					
到達目標	ウィッグを相手に「プロの仕上がり(ツヤ・立体感・スピード)」を確実に再現できる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	powerpoint資料	事前事後 学習と その内容	出題した課題を自分で深め、成果物として提出してもらいます。			
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	科目オリエンテーション	科目概要・評価方法について
2	ウィッグの「ハチ」を小さく見せるローシニヨン	ウィッグ特有の頭の張りをカバーするボリュームコントロール
3	多毛ウィッグを攻略するサイド編み込みハーフアップ	毛量が多いウィッグをすっきり見せる引き算ブロッキング
4	毛先まで美しく魅せる「編みおろしスタイル」	フィッシュボーンと四つ編みのミックス
5	ウィッグの長さを変える「フェイク・アップスタイル」	ロングウィッグをミディション・ポプに見せる偽装技術
6	ピンを弾くウィッグへの「ダブル・クロスピンワーク」	毛流が強いエリアでの絶対崩れない固定術
7	【タイムアタック】20分スピードメイキング	手数を減らしてクオリティを上げるサロンワーク意識
8	中間試験	応用アレンジの再現性とスピード
9	ウィッグの「生え際」を隠すハイポジション・アップ	ウィッグ特有の不自然なネープ(襟足)を綺麗に隠す高めのお団子
10	和装・成人式の基礎 ～「毛たぼ(あんこ)」の導入～	下地作りとボリュームパーツの固定方法
11	ヘアアクセサリーの「加点」と「減点」	飾りピン、水引き、金箔のウィッグへのバランス配置
12	顔周りの「似合わせ」とおくれ毛のJ/Sカール	ウィッグの硬い前髪ともみあげのニュアンスコントロール
13	プライダルヘア基礎 ～激しい動きに耐える耐久性～	360度どこから見ても完璧な高密度シニヨン
14	オーダーシートからの創作	指定されたテーマに基づくフリーアレンジ
15	定期試験	基礎技術の総合評価

科目名 (英)	メイクアップⅡ Makeup Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	古藤 真央
		授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	4		曜日・時間	水曜日 3・4限
講師紹介	ELCジャパン(株)M.A.Cに13年勤務。リテールマネージャーとして、店舗運営や部下育成に従事。今現在はヘアメイクや化粧品販売現場にてフリーランスとして活動。					
目的 科目概要	セルフビューティー、タッチアップメイクなどのメイクの基礎を実演し、将来自分が選ぶ仕事に直結する内容を学ぶ。					
到達目標	自分に似合うメイクを知る。色々なメイクを楽しむ。相モデルにてタッチアップメイクを学ぶ。仕事をする上での即戦力になれる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■筆記試験 ■実技試験					
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	忘れ物がないように、道具の管理を行う。	
教材	メイクBOX					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介 自分の一番好きなメイクを施術	セルフメイクをし、自分が一番盛れるメイクと一緒に自己紹介
2	ビューティメイク	美しくみえるビューティメイクを相モデルで施術
3	カラーイメージメイク	色が持つイメージを知り、カラーメイクを施術
4	イメチェンメイク	クールメイク、キュートメイク、エレガントメイク
5	ハロウィンメイク	メイクチャートを記入し、ハロウィンメイクを施術
6	中国・韓国メイク研究	アジアで流行っているメイクを調べ、施術
7	中間試験	セルフor相モデルで20点分
8	アニメキャラ変身メイク	やりたいアニメキャラなどになりきりメイク
9	日本の年代別メイク	チームになり、年代別メイク選手権
10	職業別メイク	職業によつてのメイク法を研究し、施術
11	アイドルメイク	自国、他国のアイドルメイクを調べ、相モデルで施術
12	ランダムシャドウメイク	ガチャで引いた3つのアイシャドウをペアで2パターン施術
13	BAなりきりタッチアップメイク	美容部員のタッチアップメイクに挑戦
14	定期試験	相モデル40点分
15	定期試験	セルフメイク20点分

科目名 (英)	ヘアメイクⅡ Hair Make upⅡ	年次	1	実務経験	担当	足立 祐希
		授業形態	演習			
学科	ビューティービジネス科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	4		曜日・時間	火曜日 3限・4限
講師紹介	現役ヘアメイクアップアーティストで様々な現場を経験、セットサロンの経営。					
目的 科目概要	ヘアセットのベーシックスタイルを学ぶ。					
到達目標	スタイル作りのプロセスを学び美しいヘアスタイルを作ることができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験    ■ 実技試験    □ 作品    □ 提出課題					
教科書	なし	事前事後 学習と その内容	授業中は必ずメモをとり、復習をすること <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
教材	コーム・ダッカー・タオル					
特記事項						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ローポニー	基本構成、プロセスを学ぶ
2	ローポニー	スタイルを時間内で美しく仕上げる
3	あみ下ろし	基本構成、プロセスを学ぶ
4	あみ下ろし	スタイルを時間内で美しく仕上げる
5	ルーズアップ	基本構成、プロセスを学ぶ
6	ルーズアップ	スタイルを時間内で美しく仕上げる
7	中間試験(ルーズアップ)	ルーズアップを30分で美しく仕上げる
8	かちもり	基本構成、プロセスを学ぶ
9	かちもり	スタイルを時間内で美しく仕上げる
10	逆毛、抱き合わせ	逆毛の基礎、抱き合わせの基本を学ぶ
11	かぶせアップ	基本構成、プロセスを学ぶ
12	かぶせアップ	スタイルのクオリティーを上げる
13	かぶせアップ	スタイルを時間内で美しく仕上げる
14	定期試験	かぶせアップを30分で美しく仕上げる
15	定期試験振り返り	定期試験のフィードバックを行う

科目名 (英)	保健・衛生 I	年次	1	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
	Health and Hygiene I	時間数	15	有	開講区分	後期
学科	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容師養成施設教員免許取得(衛生管理・保健・香粧品・文化論・運営管理 ) 国内外での美容師としての技術・知識を活かし授業を行う。					
目的 科目概要	保健と美容は深い関係があり、基本的な保健知識を身につけることでお客様からの信頼を得ることができる。					
到達目標	教科書の基本的な語句と意味を覚えることで、「美」に関するのトータルサポートができるようになる。 美容国家試験重要科目を理解して確実に合格レベルを上げるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■筆記試験 ■提出課題					
教科書	日本理容美容教育センター 保健 I			事前事後 学習と その内容	①教科書を理解する。 ②美容と保健の繋がりを理解と実践する。	
教材	PowerPoint					
特記事項						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	「なぜ?保健」 授業説明 《到達目標・評価基準・オンデマンド授業》
2	第1章 頭部・顔部・頸部の体表解剖学	1項:人体各部の名所 2項:頭頸部の体表解剖学
3	第2章 骨格器系	1項:骨の種類と構造 2項:骨の連結 3項:骨格器系のはたらき
4	第3章 筋系	1項:筋の種類と特徴 2項:主な骨格筋とそのはたらき 3項:表情筋と表情運動
5	第4章 神経系	1項:神経系の成り立ち 2項:中枢神経とそのはたらき 3項:末梢神経とそのはたらき
6	第5章 感覚器系	1項:視覚 2項:聴覚 3項:平衡感覚 4項:味覚 5項:嗅覚 6項:皮膚感覚
7	定期試験	第1章から第5章までの総合問題 20問
8	定期試験 《解答・解説》	中間試験の内容を知識・スキルを定着する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	保健・衛生Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	演習			
	Health and HygieneⅡ	時間数	15	有	開講区分	後期
学科	美容師科	単位	1			
講師紹介	美容師養成施設教員免許取得(衛生管理・保健・香粧品・文化論・運営管理) 国内外での美容師としての技術・知識を活かし授業を行う。					
目的 科目概要	保健と美容は深い関係があり、基本的な保健知識を身につけることでお客様からの信頼を得ることができる。					
到達目標	教科書の基本的な語句と意味を覚えることで、「美」に関するのトータルサポートができるようになる。 美容国家試験重要科目を理解して確実に合格レベルを上げるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■筆記試験 ■提出課題					
教科書	日本理容美容教育センター 保健Ⅰ			事前事後 学習と その内容	①教科書を理解する。 ②美容と保健の繋がりを理解と実践する。	
教材	PowerPoint					
特記事項						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	第6章 血液と免疫系	1項:血液のあらまし 2項:免疫のあらまし 3項:アレルギー
2	第7章 循環器系	1項:心臓のあらまし 2項:血液循環のしくみ 3項:血液の循環経路 4項:リンパ管系の仕組みとはたらき
3	第8章 呼吸器系	1項:呼吸器系のあらまし 2項:気道 3項:肺の仕組みとガス交換 4項:呼吸運動
4	第9章 消化器系	1項:消化器系のあらまし 2項:消化管の仕組み 3項:消化管のはたらき 4項:消化管と物質代謝
5	演習問題①	国家試験問題を解き、教科書を使って理解を定着させる。
6	演習問題②	国家試験問題を解き、教科書を使って理解を定着させる。
7	期末試験	《人体の構造及び機能》総合問題 30問
8	期末試験《解答・解説》	学んだ内容(インプット)を基に、問題を解く(アウトプット)理解の定着
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	多職種連携美容	年次	1	実務経験	担当	大迫 暁子
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	
学科	ビューティービジネス科	単位	2			曜日・時間
講師紹介	国内外で美容業界に従事してきた教員が、美容業界に必要なコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を養うための授業を行う。多様化する価値観や違いを受け入れ、現場で必要とされる即戦力を身に付けた業界人になるサポートをします。					
目的 科目概要	美容に関わる職種を知り、協働するための基礎的な知識を学ぶ。多職種とのコミュニケーションを経験する。					
到達目標	多様な価値観を理解し、社会人生活を送る上でのマナー・連絡・報告・相談ができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。					
	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input checked="" type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	powerpoint資料			事前事後 学習と その内容	授業で使用した教材を見返せるよう、ラップトップ内でまとめておくこと。	
教材	iPadもしくはPC・筆記用具					
特記事項	授業に必要な教材を事前に確認し、忘れ物や提出課題の遅延が無い様努めてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業目的・美容業界の全体像を知る
2	職種理解①	美容師・アシスタントの役割
3	職種理解②	ネイル・アイラッシュ・エステ・美容部員
4	職種理解③	ヘアメイク
5	職種まとめ	各職種とまとめ説明する
6	スタッフ体験1ー①	学生スタッフの役割とロールプレイ
7	スタッフ体験1ー②	自己紹介とスケジュール把握・準備
8	スタッフ体験1ー③	学科説明・体験授業
9	スタッフ体験1ー④	個別相談・リセット
10	スタッフ体験1ー⑤	振り返り
11	スタッフ体験2ー①	学生スタッフの役割とロールプレイ
12	スタッフ体験2ー②	自己紹介とスケジュール把握・準備
13	スタッフ体験2ー③	学科説明・体験授業
14	スタッフ体験2ー④	個別相談・リセット
15	スタッフ体験2ー⑤	振り返り